



年頭のご挨拶

明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は、年初から断続的に新型コロナウイルス感染拡大が続き、57年ぶりとなった東京オリンピック・パラリンピックも無観客で行われるなど、これまでない事態となりました。秋口以降は、ワクチン接種率の上昇などに伴い感染者数は減少してきましたが、新たなオミクロン株のリスクなど、予断を許さない状況です。感染対策と社会経済活動の活性化との両立が引き続き大きな課題となっています。

企業業績を見ると、新型コロナウイルスの影響で厳しい状況が続く業界がある一方、業績予想を上方修正する企業も増えてきています。昨年のJCRの格付をみると、ポジティブ方向のアクションがネガティブ方向を上回り、明るい兆しがうかがえます。

また、大きな潮流として、世界的にESGに関する機運が高まり、国内外を通じ「持続可能な社会の実現」に向けた取り組みが活発化しています。JCRはこうした時代の要請に対応すべく、必要な体制の強化・拡充を進めています。昨年3月にはサステナブル社会形成への貢献を目的に、「サステナブル社会推進委員会」を設置しました。サステナブル・ファイナンス評価では本部制を導入し、総合的な評価機関としての体制整備を図ったほか、国際・広報室を設置し、内外への情報発信の充実にも注力しています。さらに、業務の専門性、客観性、透明性を一層高めるべくESG要素が信用格付に与える影響を説明するレポート「ESGクレジットアウトLOOK」の提供を開始しました。

グローバル化にも積極的に取り組んでおり、アジア格付機関連合(ACRAA)の会長会社としてESG要素に関し意見交換を行うなど、各国格付機関との連携強化を図っています。

本年もウィズコロナ、ポストコロナといった環境の下、刻々と国内外の情勢は変わっていくものと思われませんが、JCRは環境の変化を見極め、これに的確に対応してまいります。精緻な分析、明確・迅速・タイムリーな情報発信により、内外の発行体、投資家の皆様からの信頼と期待に応え、「最も信頼、利用される」「グローバルに活用される」格付・評価機関を目指し、進んでまいります。

本年も引き続きJCRをよろしくお願い申し上げます。

2022年1月1日

株式会社日本格付研究所 代表取締役社長

高木 祥吉